

新聞活用学習支援サイト



# 新聞活用学習支援サイト「すく〜る373る」 授業実践事例集



南日本新聞社

中村学園大学教育学部・山本朋弘教授

これからの時代を生き抜くための新たな学びの姿とは	…1
デジタル新聞を活用するメリット	…2
デジタル新聞による学習効果	…3

科目別の実践事例

国語

単元「方言と共通語」	さつま町立鶴田小学校…4
「若い目」を書こう	中種子町立納官小学校…5
単元「三角ロジックで伝え合おう」	鹿児島大学附属小学校…6
単元「私たちにできること」	日置市立伊作小学校…7
記事を読んでディベートしよう	鹿児島大学附属小学校…8
「新聞朝読書」をしよう	中種子町立中種子中学校…9
朝活動で「若い目」を読もう	徳之島町立井之川中学校…10

社会

単元「ごみはどこへ」「ごみのしよりと利用」	中種子町立野間小学校…11
単元に沿った記事を読もう	いちき串木野市立旭小学校…12
単元「世界の気候」	始良市立山田中学校…13
タブレットでニュースを読もう	三島村立三島硫黄島学園…14

活動別の実践事例

課外活動

373るチャレンジ!新聞から学ぼう!	天城町立岡前小学校…15
--------------------	--------------

朝の活動

朝学活でタブレット学習	さつま町立求名小学校…16
「1分間スピーチ」をしよう	鹿児島市立城南小学校…17
【商品紹介】「すくーる373る」活用の流れ	…18

上記の実践事例は2022年度時点で「すくーる373る」を導入している一部の学校の取り組みです。鹿児島大学附属小学校は2022年10月～12月のモニター利用による実践事例です。

## これからの時代を生き抜くための新たな学びの姿とは

### 変化の激しい社会の中で

情報化や国際化が急激に進展して、子供たちが活躍する社会を予測することは極めて困難となってきました。そのような変化が激しく、予測が困難である社会を子供たちが生き抜くには、自分から問題を見つけて、自分で選び決めた方法で試行錯誤しながら解決していくためのスキルが必要となります。自立した学習者の姿をめざして、どのように支援していけばよいのか。学校教育に限らず、家庭教育や社会教育など、教育に関わる多くの関係者の悩みは、子供たちの自立した学びの構築にあります。

### 受動的な活用から主体的な活用へ

GIGA スクール構想によって、児童生徒一人一台の情報端末やクラウド環境が整備され、その有効活用が期待されています。しかし、児童生徒が授業で情報端末を活用する様子は見られるようになったものの、教師が準備した教材を使って受動的に学ぶことが多く、十分な活用が図られているとは言い難いのが現状です。これは、教師が用意した教材や資料をデジタルで配付し、それらを用いて学習を進めるといった以前からの一斉授業のスタイルから脱却できないからとも言えます。これからは、児童生徒が主体的に情報を収集して、整理分析して自ら発信していく学習活動が求められます。

### 良質なコンテンツが必要

児童生徒が情報端末を主体的に活用して、考えたり表現したりする活動を進めるには、情報を読み取ったり、情報から分析したりするための良質なコンテンツが必要となります。それらコンテンツの中で近年注目されているのが、児童生徒向け「デジタル新聞」で、学校教育での活用が期待されます。

これまでに学校での新聞活用として、NIE (Newspaper In Education) が進められています。NIE を日常的に実践した学校ほど、全国学力・学習状況調査の平均正答率が高い結果が過去に報告されています。NIE の一環として、デジタル新聞を授業に活用する取り組みは、全国で進んでおり、鹿児島でも地元紙である南日本新聞が提供する「すくーる373る」の有効活用が期待されています。



中村学園大学教育学部教授・メディアセンター長 山本 朋弘

## デジタル新聞を活用するメリット

子供たちがインターネットで必要な情報を検索して、それらを用いて学習を進める際に、いくつかの問題点が見られます。情報の検索や整理において、デジタル新聞を活用するメリットをあげてみたいと思います。

### 1. 正しい情報が得られる

子供たちはインターネットを活用する学習の中で必要な情報をキーワードで検索して、その情報をもとに分析していきます。しかし、そもそもその情報が正しいかどうかを判断する必要があります。情報の信頼性を判断するのは、子供たちにとって極めて難しいことです。デジタル新聞の場合は、その情報源が新聞社であり、信頼性の高い情報を学習に活用できます。

### 2. さまざまな種類の情報に遭遇できる

子供たちはインターネットで必要な情報を収集・整理します。しかし、その際に触れる情報は授業や目的に沿った必要なものに限られます。果たして子供たちは何が必要な情報なのかを判断できるのでしょうか。子供たちが必要とっていない情報にも学習価値の高いものがあります。新聞は、時事情報など、日常生活で起きている出来事を伝えるメディアです。新聞を日頃から目にすることはメディアリテラシーを高める上でも重要な学習活動と言えます。

### 3. より身近な地域の情報が得られる

子供たちが生活する地域の情報をインターネット上で収集・整理するのは、容易ではありません。ネットニュースでも地域の情報は流れてきますが、地域住民の声や日常的な出来事などを詳細に伝えることに強みを持つのは、自分たちが住む県内で発行される地域の新聞「地元紙」です。生活に身近な地域の情報は、生活科、社会科や総合的な学習の時間など、子供たちの学習において欠かせません。



## 4. 読解力が高まる

新聞は、文字情報を中心としながら、写真やグラフなどからも情報を読み取ることが出来ます。また、見出しやリード文などに要点をまとめてあり、わかりやすい文章から読み取る力を高めることにつながります。さらに、子供たちが学級新聞や学校新聞などを作成する際には、紙面の構成や見出しの付け方などを参考にできます。

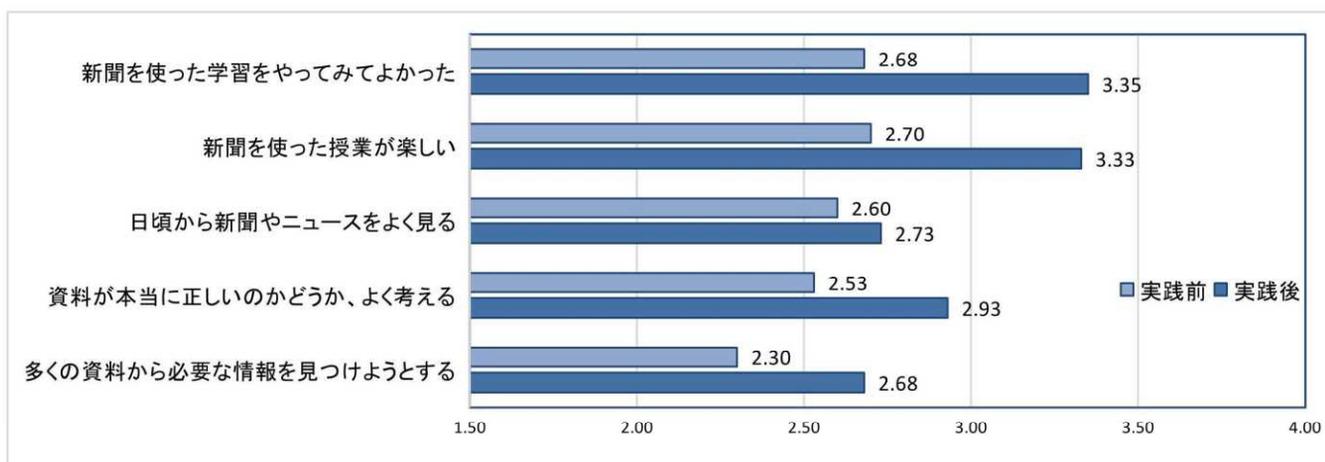
大人向けの記事の場合、漢字や熟語が難しいのではと言う声もありますが、情報端末の検索機能をうまく活用することで、漢字や熟語の読みや意味も学ぶようになります。デジタル新聞を用いた学習を進めた結果、子供たちの読解力が高まったと実感する現場の声も届いています。

## 5. 発信力が高まる

「すくーる373る」を通じて新聞投稿「若い目」に投稿することで、自分の考えを友だちや周囲の人だけでなく、県内全域にいる新聞読者にも読んでもらえます。子供たちは自分の書いた文章が新聞紙面に掲載されることで自信を持つようになります。情報発信したいという意欲はもちろん、自己効力感を高めることにもつながります。

## デジタル新聞による学習効果

「すくーる373る」を活用した授業実践の前後で、子供向けのアンケート調査を実施しました。4段階で評価してもらいましたが、以下の項目で実践後が有意に高い結果となりました。このことから、デジタル新聞の紙面検索・共有機能に学習効果が示されました。また、調査の協力校からは、「児童生徒が積極的に活用している姿が見られた」、「とても興味深い機能と感じた」という感想が寄せられました。新聞に親しむことや複数の資料の必要性、資料をもとに熟考することに関して、デジタル新聞の機能の活用が有効であることが示されました。



2020年実施した調査結果から

## 科目別の実践事例

「すくーる373る」では、子どもたちの主体的な学びをサポートする5つの機能があります。「授業の単元と記事にある実社会の出来事を結びつけて考える」、「『若い目』を読んで同世代の児童生徒がどんなことを考えているか知る」など、活用方法は無限大です。

次のページでは、「国語」や「社会」などの科目別に授業内で活用している事例を紹介します。



授  
業  
づ  
く  
り

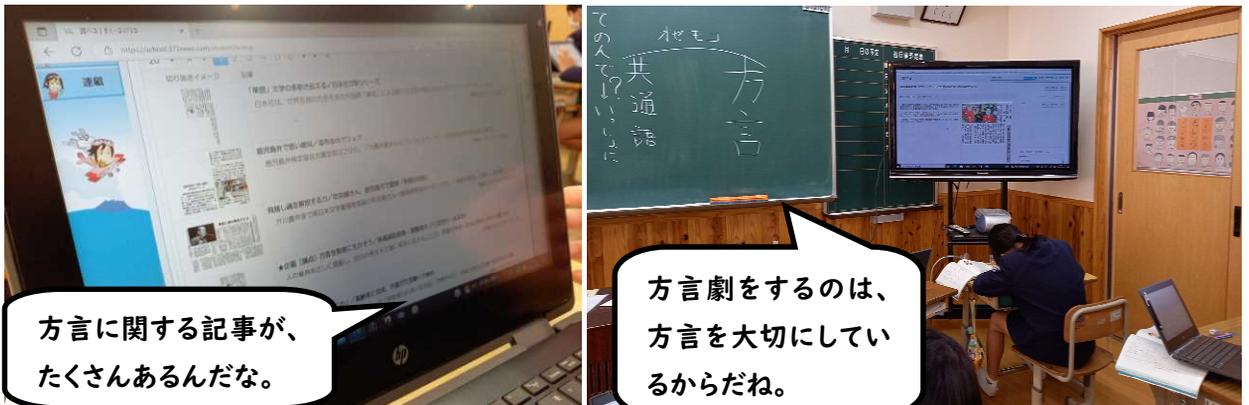
学習のねらい

- 日本各地には方言があることを理解する。
- 方言と共通語の特徴を知るとともに、それぞれのよさについて考えることができる。

デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 児童たちに方言に関心を持たせるために、オセモコ面第2・第4金曜日連載「かごしま弁クイズ」を出題する。
- 地域の人が方言に対してどのような思いを持っているかに気付けるよう、機能「調べる」を活用して方言に関する新聞記事を読む。

主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点



授  
業  
の  
実  
際

- 担任が児童に方言で話しかけ、このような言葉は何と呼ばれているか、問いかける。
- 「すくーる373る」で過去の記事から「方言 オセモコ」のキーワードで記事検索をさせる。
- 検索で出てきた「方言クイズ」の記事を閲覧させ、方言の意味を考えさせる。記事については、担任が事前に内容を把握しておき、それを閲覧させる。
- 出題された方言を、例えば東京で使った場合、どのようなことが起こるか想像させる。
- 県内では、方言に関するどのような催しがあるかを、「方言」だけのキーワードで記事検索し、各児童がそれぞれ興味のある記事を3～5つ読む。
- 県内で、広く方言にかかわる催しが開催されている背景について、記事を元に発表させる。
- 方言と共通語、それぞれのよさについて自分の考えをまとめ、発表させる。

○実践の結果（児童の反応） ◇改善点

- 児童たちに課題意識を持たせるため、担任があらかじめ、児童たちに読ませる記事を決めておくことで、考えさせたい内容に焦点化できた。
- 自分で記事を検索できるので、児童が主体的に課題に基づいた情報収集を行うことができた。記事が豊富にあるので、児童の多様な興味に対応することができる。
- ◇児童自身が見つけた記事を友達と共有する機能を使えば、さまざまな交流ができると思った。
- ◇今回は「方言」というキーワードを担任が示したが、日頃の検索ではどのようなワードを設定するかが難しいと感じた。

授  
業  
評  
価

(さつま町立鶴田小学校 5年 西村太智教諭・松久保鉄也校長)

## 学習のねらい

- 感じたことや考えたことを詩や文章にすることで、表現する喜びを味わう。
- 長く書いた作文を短く書き直すことで、文章を練る練習をする。

## デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 機能「新聞を読む」で「ひろば」面を読み比べ、掲載作品のよい点を児童たちで共有する。執筆に向けてさまざまなニュースに目を通したり、機能「調べる」で参考記事を探したりする。
- 機能「投稿」で「若い目」作品を入力する。

## 主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点

機能「新聞を読む」で「ひろば」面に採用された「若い目」作品をみんなで読む。



タイトル 自信をつける方法  
本文 7月8日は、僕の誕生日でした。そして最後の水泳発表会でした。僕は水泳があまり得意ではありません。それは、冷たいプールは目が刺さって悪苦しく、長い距離は泳ぎにくいからです。なので、毎年ある水泳の練習や発表会はどうか中止にならないものかと、いつも考えたりしました。ですが、今年は担任の先生が「水泳を中心練習をします。」と言いました。何回か練習をすることで、僕の泳ぎに対するイメージが少しずつよくなっていました。意欲も少しずつ、クロールよりも背泳ぎが得意になりました。親友は「得意」と賞られるほど泳ぎがうまくなり、友も水泳のほうに興味が出てきました。水泳発表会当日、水泳なら50mを泳げるようになり、少し水泳に自信が出てきました。また泳ぎはあまり好きではありませんが、自信を持って取り組みたいと思って、これからはいろいろなことに挑戦したいと思います。

1200字で書いた作文を、機能「投稿」で450字に書き直す。余計な文字をそぎ落とし、よりよい表現を模索する。

- 全員で「若い目」作品を読み、自分たちが書いた日記などの文章を振り返る。また、その記事を読んで感じたこと、考えたことなどを文章として整理し、お互いに共有する。
- 与えられたテーマ（行事についてなど）について、自由に文章を書く。「若い目」で目にした表現を使ってみたり、その時に考えたことを詳細に書き込んでみたり、さまざまな要素を盛り込んで1200字を目安に書いてみる。
- 機能「投稿」を使用し、1200字から文章を練って450字にする過程で、よりよい表現を追究する。表現方法などは教師がアドバイスする。
- 毎日の学習で取り組む日記の文字数を200字から450字に増やし、日常の出来事を詳細に書き込む練習を重ねている。

## ○実践の結果（児童の反応）◇改善点

- 「若い目」への投稿を意識して作文に取り組むようになった。「若い目」採用数も増えた。
- 加除修正がしやすいため、意欲的に表現しようとする姿が見られた。また、文字数に制限があることで、自分の文章を推敲する習慣が身についてきている。
- 機能「新聞を読む」でデジタル新聞に触れる機会が増え、鹿児島県内のニュースや地域の話題に関心を持つようになった。授業で学習した内容に関連した記事に興味を示すようになった。
- 同世代の読者が書いた「若い目」作品を読むことで、テーマ設定や着眼点などに気付きがあり、表現を工夫するようになった。
- ◇一面記事については、児童にとって話題や言葉が難しく、自分たちで読むという意識が高まりにくい。必要に応じて、言葉の意味を調べたり、担任が教えたりする時間を設けている

（中種子町立納官小学校 中村琢人教諭）

授業づくり

学習のねらい

- ある日の新聞の中から最も心動かされた写真を選び、根拠を示して児童同士で紹介し合う。
- どのように心動かされたか（主張）、なぜそう感じたのか（根拠と理由付け）を論理的に組み立て、工夫しながら他の児童に伝える。

デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 機能「新聞を読む」で目にとまった写真を選ぶ。ノートに分析結果をまとめる。
- タブレット画面を近くの席の児童同士で見せ合いながら議論したり、大型スクリーンで共有表示して発表したりする。

主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点



授業の実際

- 心を動かされた写真を選び、感じたこと（主張）を支える根拠（写っているものの分析や記事から読み解いた事実や背景）と理由付け（自分との比較や自分自身の体験に関連づける）を導き、写真の記事を自分に引きつけて読み解いた。
- 自発的に近隣の児童に選んだ写真を紹介し合う言語活動が始まり、自薦他薦でクラス全員に大型スクリーンを使って発表した。話し方を工夫して興味を引くような表現をする児童もいた。
- 言語活動の一環として、ノートに手書きのメモを取ることを大切にしている。「すくーる373る」にあるメモ機能を使用せず、写真や記事を参照するためにタブレットを使用した。

○実践の結果（児童の反応）◇改善点

- 副教材に紙の新聞を使用した時は、児童は教師が準備した素材を与えられる側だった。しかし、デジタル新聞では、児童自ら素材を探すようになり、能動的に記事を探すようになった。
- 地元紙ならではの身近で起きた実際の出来事から自分自身の体験を重ね合わせ、共感を引き出すことができた。毎日情報が更新されるため、時流に合った話題を教材として活用できた。
- 児童が選んだ記事を瞬時にクラス全員に共有できるようになり、利便性が高まった。児童同士で話し合いの時間が取りやすくなった。
- ◇タブレット内で表示される記事に線を引いたり、丸を付けたりの書き込みができると、発表などで記事を共有する際により理解を促すことができると感じた。

授業評価

（鹿児島大学附属小学校 国語科主任 原之園翔吾教諭）

※鹿児島大学附属小学校は2022年10月～12月のモニター利用による取り組みです。

学習のねらい

- 身の回りにある環境問題を考えるための資料を集め、文章構成を考えて、自分にできることを提案文にまとめる。
- 副教材に新聞記事の環境問題に関連する記事を読み、グループワークで具体的な提案を考える材料にする。

デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 機能「調べる」で、環境に関するキーワード（「ごみ 分別」「食品ロス」「ウミガメ」「電気」「SDGs」など）を検索し、関連する記事を読む。調べたことをワークシートに記入する。

主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点

「食品ロス」「貧困」「海洋保護」、...  
身近にもいろんな問題があるんだね。



1. 提案のきっかけ  
貧困に関する新聞記事で貧困状態で苦しむ人が世界には約6.9億人いることを知った。あまりにも貧困状態で苦しむ人が増えると、世界の人々が平和に暮らすことができないそうだ。また、世界の人口が減ってしまうとも書いてあった。伊作小学校は、落とし物が多い。それは貧困状態で苦しむ人達は物がほしくても使えないことを知って、...

新聞記事で知った問題と似たような状況が学校など身近にあると分析。その問題解決のために自分たちができることを考えた。

- 環境問題に関する記事は、児童たちがそれぞれ思い付いたキーワードに沿って検索する。事前に教師が「SDGs」について解説したウェブサイトを提示して説明した後、すくーる373の機能「調べる」で「SDGs」や「海」「貧困」などの複数キーワードで検索結果を絞り込んだ。
- 記事の検索方法を見童同士で教え合いながら、求める情報に沿ったキーワードを導き出し、目的の記事を探すことができた。
- 教師が用意したワークシートに沿って、児童たちはメモを取った。「提案のきっかけ」となる根拠を新聞記事から参照したり、記事の要旨を書き写した。

○実践の結果（児童の反応） ◇改善点

- 「SDGs」のような新しい話題についての教材は少ない。SDGsの各項目に関連する記事やなぜ今必要なのかなど、子ども新聞でわかりやすく紹介されていて、学習活動の役に立った。
- 世界的な社会問題としてだけでなく、環境問題を身近な地域で起きている事象や取り組みで知り、当事者の一人として考えることができた。
- 提案文の根拠となる基礎情報を、確かな情報源である新聞記事から引用できた。
- ◇検索キーワードの選択や組み合わせは児童たちが考えたが、求めている情報をなかなか見つけられなかった。例えば、新聞では「ごみ」表記であることを知らずに「ゴミ」で検索したり、「ウミガメ」表記のところ「うみがめ」で検索したりしていた。教師が検索キーワードを例示するほか、検索時の注意点を説明する必要があると感じた。
- ◇教師が見童に読ませたい記事を提示する機能「授業」の使い方がよく分からなかった。

（日置市立伊作小学校 6年 小山薫教諭）

授業づくり

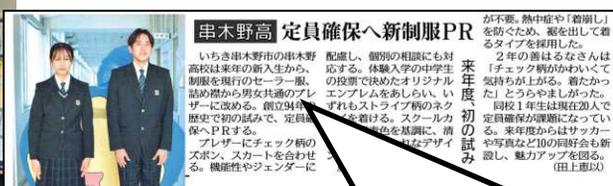
学習のねらい

- 新聞記事を根拠に議論の柱を設定し、自分の考えを深め、相手に自分の考えを伝える。
- 記事に書かれていない物事を想像したり、調べたりして、記事の背景にある問題の本質を探る。根拠を示しながら考えを伝え、話し合いの力を身につける。

デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 取り上げる記事を機能「新聞を読む」や機能「調べる」「授業」で表示し、児童全員で読む。
- インターネットで記事に関連する情報を収集し、考えの根拠を示す。

主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点



授業の実際

○2022年11月5日付け「串木野高校 定員確保へ新制服PR」という記事を全員で読んだ上で、議論しようと教師が児童たちに呼びかけた。児童の提案で「生徒確保のために制服をリニューアルする」という取り組みを評価する賛成派と反対派に分かれて、議論した。

○根拠を裏付けるため、インターネットで串木野高校のホームページや入試倍率などを調べた。

○写真からも記事に書かれていないことを類推した。児童からは「ジェンダーや多様性という視点から効果的な取り組みだと考える」、「記事は学校側の取り組みが書かれていて、在校生や保護者の考えが触れられていない」、「そもそも生徒を増やすことよりも、在校生の満足度を高める取り組みを行うべきではないか」など、議論が広がった。

○実践の結果（児童の反応） ◇改善点

授業評価

○身近な話題が載っている新聞から児童同士が議論の種を見つけ、考えを深め、相手を説得する、高度な言語活動に発展できた。

○新聞記事はある事象を切り取って書かれたもので、記者や編集者の意図があるという事を意識して読むことで、より広い視点で物事を捉えられるようになった。

○新聞記事を根拠とした話し合い活動として、小学校の低学年から高学年まであらゆる学年で取り組むことができる活動だと考える。

(鹿児島大学附属小学校 国語科主任 原之園翔吾教諭)

※鹿児島大学附属小学校は2022年10月～12月のモニター利用による取り組みです。

## 「新聞朝読書」をしよう

中学校

1・2年

国語

朝の活動

授業づくり

### 学習のねらい

○新聞を読むことによって、社会の情勢や諸問題に目を向け、社会への関心を高め、自分の考え・意見を持つ生徒を育てる。

○記事を読み、意見や感想等をまとめ、展示発表することで、読解力や表現力を培う。

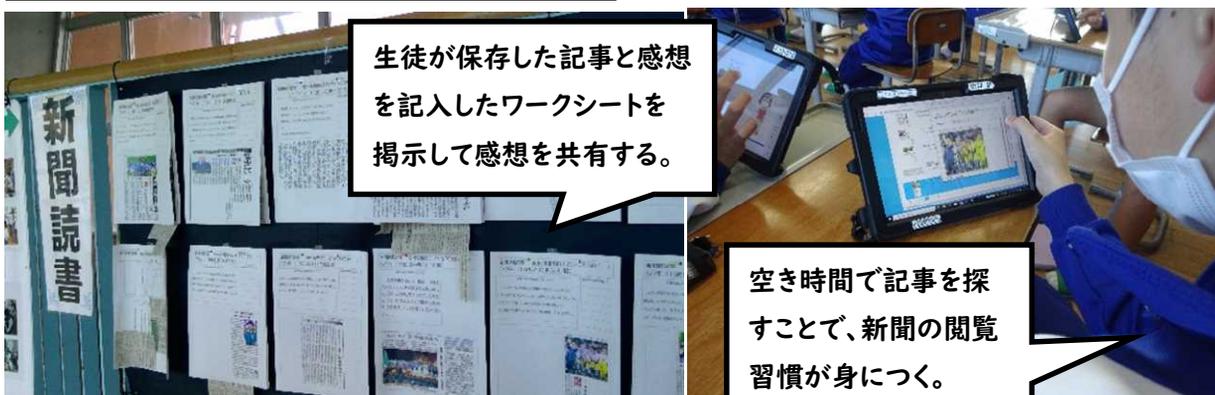
### デジタル新聞とタブレットの活用方法

○機能「新聞を読む」で、過去1週間分の新聞から、自分が興味を持った記事を探す。機能「調べる」で記事を保存し、画像を切り抜き、保存しておく。

○事前に空き時間等で新聞を読み、記事を選んでおくことで、感想を書く時間が確保できる。

授業の実際

### 主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点



○学校司書が記事の感想を書く欄と記事の貼り付け場所を示したワークシート（Word データ）を準備しておく。

○生徒たちは記事の情報から、機能「調べる」の「検索補助キーワード」に入力し、目的の記事を見つける。「記事の保存」を使って、興味を持った記事を収集する。

○新聞朝読書当日までに、保存した記事を Windows のスクリーンショットアプリ「Snipping Tool」（現・「切り取り&スケッチ」）を使って切り抜き、ワークシートに貼り付け、感想を書く。

○ワークシートを掲示して、他の生徒がどの記事を選び、どのような感想を持ったか意見の交流を図る。

授業評価

### ○実践の結果（生徒の反応） ◇改善点

○地理的条件、天候の影響での配達遅れや、新聞購読家庭が少ないことにより、新聞を読む習慣がない生徒が多かった。デジタル新聞を活用することで、全員が閲覧でき、新聞を読む習慣付けができた。社会の情勢に関心を持つ自主性がうまれた。

○機能「新聞を読む」では読める紙面が限られているため、生徒たちは関心のある記事を選びやすい。各記事だけでなく紙面全体をPDFで閲覧できるため、さまざまなニュースや特集記事が目に入る。新聞そのものに興味を持たせることができ、紙の新聞にも誘導しやすい。

（中種子町立中種子中学校 学校司書 松下真紀）

## 学習のねらい

- 「読解力、表現力の向上」…読む力、伝える力を身に付けさせる。
- 「自己有用感の育成」…異なる考え方や価値観に触れることで、自己の存在感を意識させ、心豊かな生活への展望を持たせる。

## デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 機能「新聞を読む」で過去1週間の投稿欄「若い目」を読む。
- 興味ある投稿を選び、学校で導入している学習支援アプリに貼り付け、自分の意見や感想を書き込む。

## 主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点

同年代の小中学生が書いた投稿作品「若い目」を、それぞれのペースでまとめて読む。



- 200字程度以内で「若い目」投稿作品に対する意見、感想を書く。
- 表現方法などは教師がアドバイスを行う。
- 生徒が選んだ記事、感想は印刷し、廊下に掲示をする。
- 投稿を選ぶ際に、離島の学校の投稿や地元と関係する内容に関心を持つ傾向がある。
- クラスメートが選んだ投稿や書いた内容を学習支援アプリで共有することで、読む作品を選ぶ時や感想を書く時の参考にできる。

## ○実践の結果（生徒の反応）◇改善点

- 生徒たちにさまざまな記事に触れさせることができた。
- 短い朝の活動の時間内で学習のねらいに応じた実践ができた。
- 同年代の生徒が書いた投稿作品を読むことで、読解力が向上しているのを感じている。
- 生徒たちに投稿作品を読んだ感想を書かせることで、書く力が向上しつつあるのを感じる。
- ◇「新聞を読む」のPDFの読み込みに時間を要する場合があります、時間内に活動が終わらないことがあった。

（徳之島町立井之川中学校 前畑あさよ教頭）

授業づくり

学習のねらい

- 副教材として関連記事を読み、鹿児島のごみ活用の現状を学ぶ。
- 単元に沿った個別学習の中で、「プリント学習」「資料作成」「調査活動」に加えて「デジタル新聞」を位置づけ、記事を読んで学んだことをメモにまとめる。

デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 機能「授業」で、事前に教諭が選んだ「ごみ活用」記事を児童が自由に読む。
- 記事を読んで、児童が考えたことをメモ（機能）に記入し、児童同士でメモを読み合う。

主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点



（日置市吹上の「ごみでファッションショー」の記事を読んで）海洋ごみをドレスやジャケットにしているなんてびっくりした！

個別学習の計画表。「プリント学習」「資料作成」「調査活動」に「デジタル新聞」も。

日	全体学習			
	（説明） 全員で行う学習 内容	習する。	ふり返り	自分でメモを書く。 ふり返り
7/ 4(月)	もやされたあとの服はどうなるのか？			デジタル新聞を先生から送られてきた。おもしろい？
7/ 6(水)	資源ごみはどう処理されているのか？			プラスチックごみを燃やしてエネルギーにするって聞いたよ。
7/ 7(木)	ごみ問題の難題とは？このままで大丈夫かな？			

授業の実際

- 事前に教師が生徒たちに読ませたい記事を保存しておくことで、生徒は共通の記事を各自のペースで読み進めることができる。同じ記事を読んだ児童同士が意見交換ができる。
- 機能「授業」で新聞社がテーマ単元別に用意した「記事パッケージ」に加えて、過去5年分の記事を追加して、読ませたい記事をタブレット上でまとめて提示することができる。
- 個別学習の中に「デジタル新聞」を位置づけることで、児童の学習の選択肢が増えた。
- タブレット端末の利用を制限しないことで、宿題や課外授業でも活用できる。

授業評価

○実践の結果（児童の反応）◇改善点

- 全体で学習したごみ処理の問題や「3R」のことと合わせて記事を読み、記事から分かったことや自分が思ったことをメモに記録していた。
- 実際にあった事象を新聞のような確かな情報から活用でき、児童たちの興味・関心を高めるだけではなく、知識を増やすことにもつながると感じられた。実生活に即した学びの実現につながると感じた。
- 意図的に記事を読ませたり、メモを取らせたりすることで、教科書で学んだことを実生活の中でも感じられるようになり、学習がより自分事として捉えられるようになった。
- ◇教科書等と合わせて活用したが、学習者に与える情報量が多くなってしまい、児童同士の意見を共有する活動を充実させることが難しかった。
- ◇「どのような情報をどのように学習者に示すか」が指導者の課題となると感じた。よりよい活用の在り方を模索していきたい。

（中種子町立野間小学校 特別支援学級 長谷部勇太教諭）

## 単元に沿った記事を読もう

小学校

全校

社会

自習時間

授業づくり

### 学習のねらい

○授業で学ぶ単元やテーマに沿った記事を探して読むことで、授業内容と実社会の関連を考えるきっかけにする。

○目的とする情報を得るための情報検索技術を学ぶ。

### デジタル新聞とタブレットの活用方法

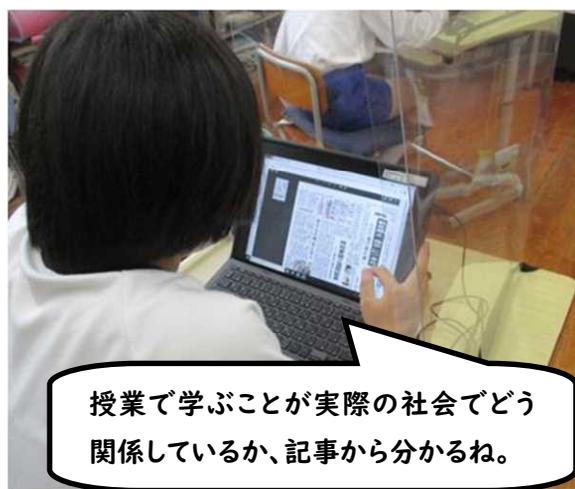
○教師が今後学ぶ単元やテーマを伝え、機能「調べる」で過去1週間分の記事から関連記事を検索する。検索キーワードは教師が提示する。

○教師不在の場合でもタブレットは使用可能。児童のペースで事前学習を進められる。

### 主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点



検索キーワードの組み合わせを変えると、検索で出てくる記事も変わるね。



授業で学ぶことが実際の社会でどう関係しているか、記事から分かるね。

授業の実際

○機能「調べる」にある「検索補助キーワード」（教師が事前に検索キーワードを入力し、ワンクリックで記事検索が可能な機能）を設定せず、児童自らでキーワードの組み合わせや入力をする。多数の検索結果から目的とする情報を得るために必要な検索技術を磨く。

○授業の予習手段としてデジタル新聞を使うことで、身近なニュースや社会問題と学習内容の関連が分かり、授業に取り組む意識が高まる。

○全ての単元に関連した記事が存在するとは限らないため、事前に教師が検索して記事の存在を確認しておく。

### ○実践の結果（児童の反応）◇改善点

○授業理解の早い児童の予習手段として、デジタル新聞を活用できた。

○授業の各単元をより身近な出来事と関心を持って捉えるようになった。

○日常における社会情勢を知る機会になった。記事を通じて児童一人一人がしっかり理解し、自分なりの考えを持つことで、より深く単元を学び、考えることができた。

◇直近1年分の記事検索結果では、単元に関連した記事があまりなかった。また、記事があっても小学生には難しく感じる内容だった。

授業評価

（いちき串木野市立旭小学校5・6年 山元真作教諭）

授業づくり

学習のねらい

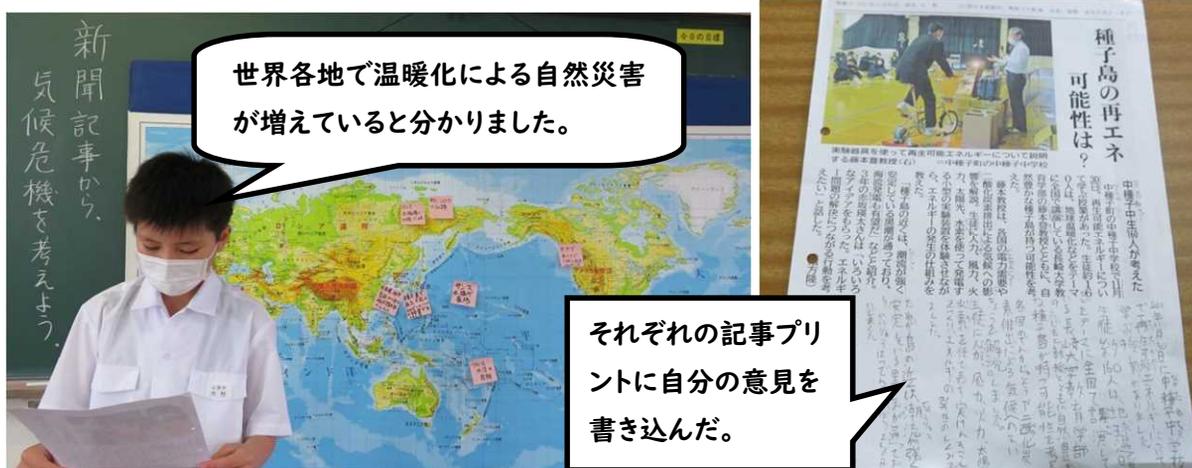
- 教科書で熱帯から寒帯までの「気候区分」を学習することにあわせ、直面する社会問題である「気候危機」について新聞記事から学ぶ。
- 「気候危機」に関する記事を読み、各記事について生徒たちが意見を交換、発表する。

デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 機能「授業」で、事前に教師が「気候危機」「温暖化」「砂漠化」「洪水」などのキーワードで検索、保存していた記事を生徒が読む。生徒も機能「調べる」で関連記事を検索する
- 記事で読んだニュースについて、生徒各自でその地域やニュースの背景を検索して調べる。

主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点

授業の実際



- 同じ記事を読んだ生徒同士が意見交換できた。記事を読み比べることで「気候危機」にもさまざまな種類の現象があることが分かった。
- 最も関心があった記事はPDFプリント、ないしは新聞スクラップで切り出し、プリントに貼り付け、感想や自分の意見を書き込んだ。プリントを元に生徒それぞれが意見を発表し合った。
- 過去1年分（授業で教師が用意した記事は過去5年分）の記事から、テーマやキーワードを絞ってニュース検索することができた。最新の記事を教材として活用できた。
- 機能「調べる」で検索するにあたり、教師が管理用システムで事前に生徒に調べてもらいたいキーワードを登録した（「検索補助キーワード編集」機能を活用する）。

授業評価

○実践の結果（生徒の反応） ◇改善点

- 事前に教師が生徒たちに読ませたい記事を保存しておくことで、生徒は共通の記事を各自のペースで読み進めることができた。さまざまな記事を読み比べることができた。
- 世界各地で現在起きている気候変動による自然災害を知ることができた。
- 意見交換と発表を通じて、生徒自身が考えを深めることができた。
- ◇機能「授業」内にある「メモ」を使用せず、プリントに意見を書き込んだ。生徒たちにとって「メモ」の活用が難しいと感じた。
- ◇機能「授業」で事前に資料制作する際に、記事検索や授業公開など、操作が難しく感じた。教師側も使用方法に慣れが必要だと感じた。

（始良市立山田中学校 社会科 内村加代子教諭）

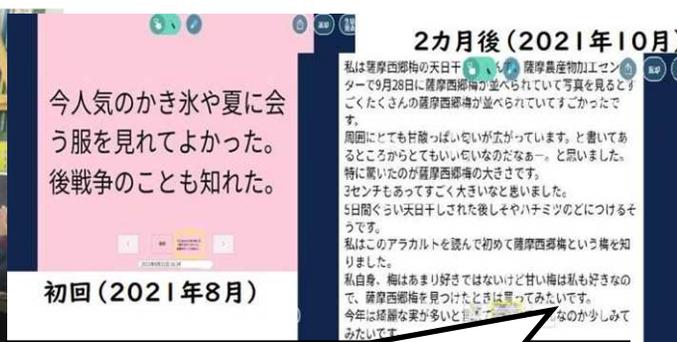
学習のねらい

- デジタル新聞を読んで、全国や鹿児島県内のニュースに触れて、社会の今を知る。
- 自分の意見や感想を書き込み、他の生徒と読み比べることでさまざまな考えがあると知る。

デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 教師が機能「新聞を読む」で日曜オセモコ面「ニュースアラカルト」PDFを取り出し、学習支援アプリに添付する。
- 生徒が学習支援アプリのメモ機能で記事の感想を書き込む。そのメモを生徒同士で共有する。

主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点



初回(2021年8月)

回を重ねるごとに、より詳細に詳しく自分の考えを書き込めるようになった。

- 文字数や内容などに制限を設けない。
- 生徒同士で感想メモを共有することで、他の生徒の感想と自分自身が書いたものを読み比べ、表現や考えの深め方を参考にすることができる。
- ニュースアラカルトの記事を定期テストに出題することで、ただ読むのではなく、知識として取り入れる意欲を促すよう、活用を進めている。
- 社会の授業中に、ニュースアラカルトの中で特に注目したニュースとその理由を発表してもらい、思考力や表現力の育成を心がけている。

○実践の結果(生徒の反応) ◇改善点

- 新聞やニュースに触れる機会が増え、普段から、デジタル新聞を読むようになった。
- ニュースや地域の話題に関心を持つようになった。作文や小論文の話題が豊富になった。
- ニュースを自分自身の周囲の出来事などに引きつけて捉えるようになり、考えを深めることができるようになった。
- 生徒たちは新聞を読む習慣がなかったが、気軽に日本や世界のニュースに触れることができるようになった。生徒たちも知識の定着を促す活動に意欲を示しており、今後も積極的な活用を心掛けていきたい。

(三島村立三島硫黄島学園 社会科 西航矢教諭)

## 活動別の実践事例

「すくーる373る」では、機能「新聞を読む」や「クイズ」など、授業以外でのシーンでも活用できます。簡単な操作で利用できるため、タブレット端末が利用できる時間は、児童生徒たちが自主的に新聞記事を読んだり、クイズに挑戦する姿を目にすることができると導入校から報告があります。

次のページでは、宿題や朝の活動など、活動別での事例を紹介します。



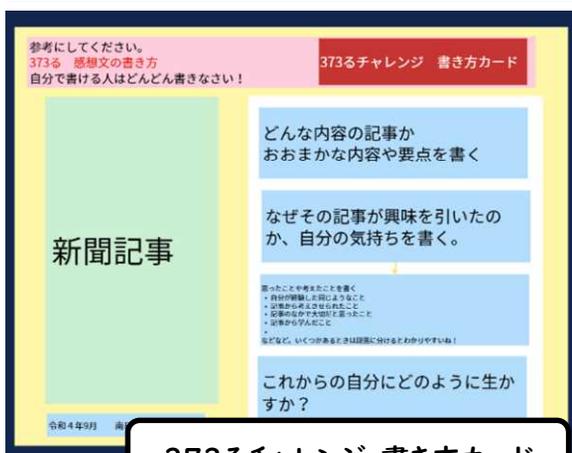
## 学習のねらい

- 定期的に新聞に触れることで、読むことに対する興味や現在の社会への関心を育てる。
- タブレット端末で感想や意見を書き、文章構成を考える力やタイピング技術の向上を図る。

## デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 教師が学習支援アプリで枠を作成し、そこに機能「新聞を読む」で取り出した南風録やオセモコ面の記事を添付したあと、児童にカードとして配布する。
- 児童が配布された新聞記事を読んだあと、枠内に感想等を書き込み、指定された提出箱に提出する。その後、学習支援アプリの共有機能を使って感想等を児童同士で読み合う。

## 主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点



373るチャレンジ 書き方カード

初回(2022年9月2日)

7回目(同年10月27日)



チャレンジを重ねるごとに、分量が増えたり、構成を意識したりしている文章が増えた。

- 「373るチャレンジ 書き方カード」を配布するカードの先頭に添付して一緒に配布することで、ねらいである文章構成を毎回意識させる。
- 教師が複数の記事を用意したり、記事を指定しなかったりする回を設定することで、児童の興味関心に即した活動を展開することができる。
- 字数制限を設けないことで、指定の時間(15分間)の中での成果を毎回比較することができ、児童のスキルの向上を児童自身が実感することができる。
- 互いの成果を共有することで、他の児童の表現や書き方を、次の「373るチャレンジ」やその他の活動に生かすことができる。

## ○実践の結果(生徒の反応) ◇改善点

- 段落をつくったり、話題をまとめたりして書くなど、構成を意識して文章を書くことができる児童が増えた。
- 朝の活動の時間(毎週木曜の15分間)と時間を指定したことで、集中して活動に取り組むことができた。
- 活動によってタイピングの必然性が生まれ、それに伴いスキルが向上し、入力できる文字量が増えた。
- 新聞を読む習慣がなかった児童が、朝の会で行う1分間スピーチで「すくーる373る」の記事を元にした発表をする機会が増えた。
- ◇児童が使い慣れている学習支援アプリの機能を使用した。今後は「すくーる373る」のメモ機能を使用した実践も行いたい。

(天城町立岡前小学校 飯伏竜二教諭)

## 学習のねらい

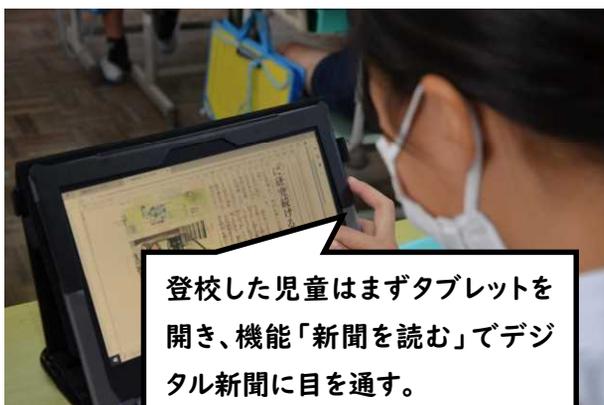
○デジタル新聞を読んで、全国や鹿児島県内のニュースに触れる。長文を読み、語彙を増やす。

## デジタル新聞とタブレットの活用方法

○機能「新聞を読む」で過去1週間分の記事を読む。

○日直は気になる記事を選び出し、関心を持った理由などを書き出す。スピーチでクラスメートにニュース内容を要約、紹介する。

## 主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点



登校した児童はまずタブレットを開き、機能「新聞を読む」でデジタル新聞に目を通す。



朝の会では、日直が一番気になった記事をみんなに発表する。

○決まった時間に活動を続けることで、デジタル新聞を読む習慣が身につく。

○限られた時間内に読みたい記事やニュースを見つけるため、情報の取捨選択ができるようになる。長文を読む訓練になり、読むことへの抵抗感軽減につながる。

○分からない単語や語句が出てきた場合にはノートに書き留め、国語事典などで意味を調べるようにする。

○デジタル新聞で新たに学んだ単語や語句を使って作文を書くようにする。

○タブレット端末を使う時間を制限しない。登校した児童から自由にタブレットを使用できるようにする。

## ○実践の結果（児童の反応）◇改善点

○朝学活の時間だけでなく、デジタル新聞を読むようになった。

○ニュースや地域の話題に関心を持つようになった。作文の話題が豊富になった。

○作文で新たに学んだ語句を使い、表現を工夫するようになった。

○時事問題や県内の話題への関心が高まってきた。

◇日直スピーチの順番が回ってくるまで時間がかかり、各児童の発表機会が少なかった。

◇日直スピーチへの感想や意見を児童同士で出し合い、議論を深める機会を設けられなかった。

（さつま町立求名小学校5・6年 祝悟司教諭）

## 学習のねらい

- 新聞記事に触れ、どのような出来事が社会で起きているのかを知る。
- 他の児童に、自分が選んだ記事についてわかりやすく伝える力を養う。

## デジタル新聞とタブレットの活用方法

- 登校後、朝の準備が終わり次第、各自で機能「新聞を読む」にある子ども面（漢字全てに読み仮名が付いている）の記事を読み、記事の概要や感想を1分間のスピーチにまとめる。

## 主体的な学びにつなげるためのポイント・留意点

各自でタブレット端末を用意し、機能「新聞を読む（こども面）」の記事を読む。



日直は、自分が選んだ記事を紹介し、感想を発表する。



- 登校後、朝の準備が終わったら、タブレット端末の「すくーる373る」の機能「新聞を読む」を開き、新聞記事を読む習慣を身に付けさせる。
- 児童の実態を考慮し、読み仮名のあるこども面の記事を読ませることで、新聞記事を読むことへの抵抗を少なくする。
- 日直の仕事として、その日の記事を選んで、どんな内容だったか、どのような感想を持ったかを「1分間スピーチ」で発表する。
- 聞いている児童は、発表後に必ず拍手をさせる。

## ○実践の結果（児童の反応）◇改善点

- 毎朝デジタル新聞を読むことを楽しみにしている児童が増えた。
- 児童からは「紙媒体の新聞と違い、デジタル新聞の記事は、拡大できるのでとても読みやすい」という声があった。
- 特別支援学級は多学年の児童が過半数。読み仮名がある記事があるおかげで、全員で一緒に活動に取り組むことができた。
- ◇タブレット端末でデジタル新聞を読む習慣が身に付いてきたので、紙媒体の新聞記事を読む習慣へと発展させていきたい。

（鹿児島市立城南小学校 特別支援学級 竹下孝樹教諭）

# 【商品紹介】「すくーる373る」活用の流れ

テーマ:新聞を読んで「若い目」を書こう

## ①機能「新聞を読む」で興味のある記事を探す



直近1週間の一部紙面を読むことができます。閲覧できるのは毎日の「1面」「ひろば面」「県都面」「地域総合面」「子ども(オセモコ)面」の5~6ページ分。新しく正確な情報に触れることで、社会や私たちが住む地域でどんな出来事が起きているか関心を持つきっかけになります。



また、ひろば面に投稿された「若い目」を読むと、鹿児島に住む同世代の児童生徒がどんなことを考えているか、知ることもできます。

## ②機能「調べる」で過去に掲載された関連記事を探す

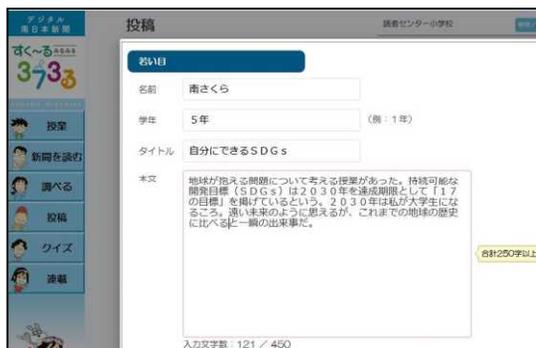


新聞を読んでみて、気になる記事があったら、キーワード検索で関連記事調べてみましょう。過去の記事を読むと、一つの物事を多角的に捉えることができ、興味関心が深まり、新たな視点を得ることができるかもしれません。



目的とする記事にたどり着くために、適切な検索キーワードを考えることも学びになります。探した記事には考えたことをメモとして書き添え、教科ごとに保存し、友だち同士で共有することもできます。

## ③機能「投稿」で「若い目」として自分の考えをまとめる



記事を読んで考えたことを文章にまとめてみましょう。文字数は400字~450字と制限があり、文章を練ることでよりよい表現を探ることができます。まずはノートや作文用紙に下書きしてみましょう。



長文のキーボード入力はタイピングの練習にもなります。

#### ④先生用管理画面で児童生徒の投稿作品をチェック



The screenshot shows a web interface for managing submissions. At the top, there are tabs for '若い目', '調べる', '投稿', and '操作状況'. Below the tabs, there are filters for '投稿' (5年), 'クラス' (1組), and '生徒が送信した投稿一覧'. There are input fields for '出題番号', '名前', and 'タイトル', and a dropdown for '状態' (すべて). A table lists submissions with columns for ID, 出題番号, 名前, タイトル, and 生徒からの送信日.

ID	出題番号	名前	タイトル	生徒からの送信日
751	40	南さくら	自分でできるSDGs	2023-02-21
200	7	橋本洋	自分に負けない	2022-08-10
119	30	早見聡人	ザルが出た	2022-06-09
118	12	渡辺洋子	大きく飛ぶために	2022-06-14

教師は管理画面から児童生徒が書いた投稿「若い目」の内容をチェック、添削できます。パソコンやタブレット上で作業できる上、ワンクリックで南日本新聞社に投稿できます。教師の労務軽減につながります。



#### ⑤南日本新聞に掲載されることも

南日本新聞社に寄せられる「若い目」には「すくーる373る」を使って投稿される作品も増えています。

採用された場合には、新聞紙面に掲載され、機能「新聞を読む」でクラスのみなどで作品を読むことができます。



#### ◎キーワード検索のコツ

機能「調べる」で記事を検索するとき、ほしい情報が見つからないことはありませんか？

新聞用語には「植物や動物の名称はカタカナ表記にする」などのルールがあります。(例)ヒマワリ、ジャガイモ、サツマイモ、テントウムシ、ゾウ

環境問題に関連して「ゴミ」について調べる児童生徒が増えています。新聞では「ごみ」と表記します。ひらがなやカタカナで検索結果の件数が違うことがあります。

また、「〇〇市のごみ問題」のように、文章で検索すると、その文言と完全に一致する記事だけを探すため、目的とする記事にたどり着けません。

「〇〇市 ごみ 問題」のように単語ごとにスペースを入れて検索しましょう！





# 南日本新聞社

## 【お問い合わせ先】

### 読者センター

---

電話 099-813-5111

ファクス 099-813-5017

メール [dokusya@373news.com](mailto:dokusya@373news.com)

### デジタル営業部

---

電話 099-813-5061

ファクス 099-813-5302